



遺跡を掘る!



第4号 2019年11月9日

(公財) 鳥取県教育文化財団調査室では、一般国道313号の改良工事に伴い、平成29年度に引き続き、6月3日から平ノ前遺跡の発掘調査を行ってきました。この度、発掘調査を皆さまのご協力とご理解のもと、無事に終わることができましたので、平ノ前遺跡の調査成果を簡単にご紹介します。

平ノ前遺跡 (ひらのまえいせき)

遺跡は倉吉市上古川に所在し、小鴨川左岸、天神野台地の崖下から約30m東に位置します。南西約300mには、奈良時代の寺院跡で、四天王寺式の伽藍配置と推定される石塚廃寺跡があります(写真①)。

今年度は2地区(A1区盛土部・P3区)の調査を行いました(写真②)。

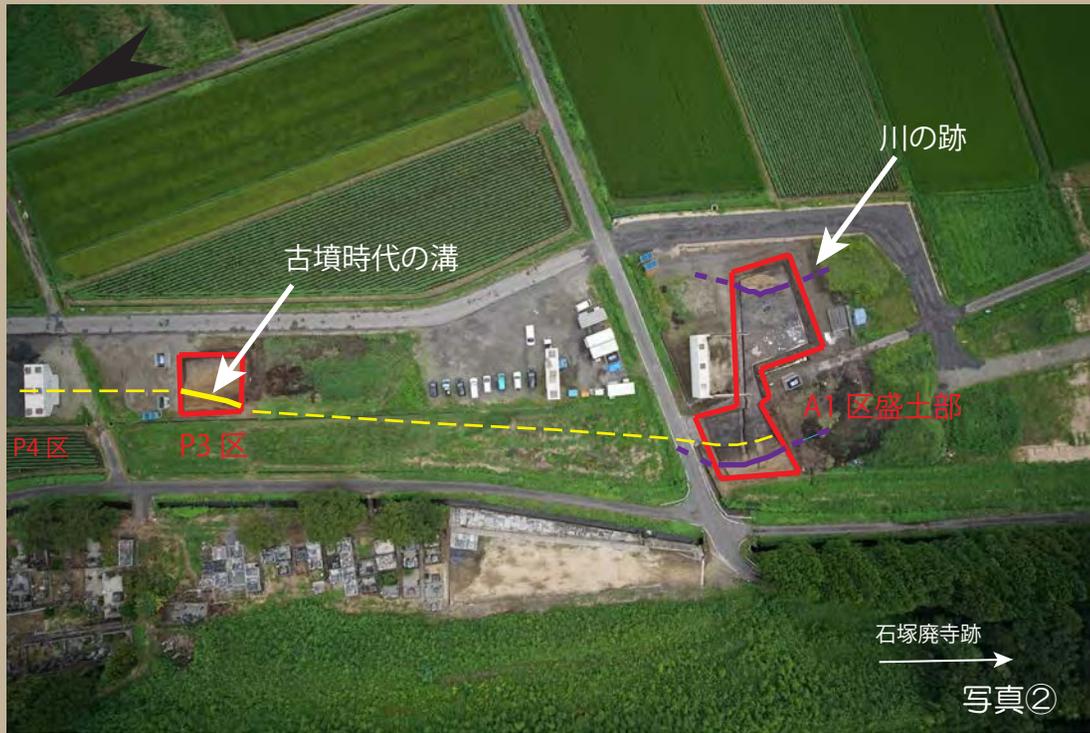
A1区盛土部では、縄文時代から鎌倉時代(約3000年～800年前)にかけて流れていた川の跡が確認されました。川幅は約30m、深さは1m以上あり、天神野台地の東裾を流れていたようです。鎌倉時代には埋没し、流路が変化したと考えられます。

P3区では幅80cmほどの古墳時代(約1600年前)の溝が見つかりました(写真⑤・⑥)。これは人為的に掘られた溝で、A1区盛土部及び平成29年度に調査を行ったP4区でも見つかりました。一連のものとするれば、長さ150m以上にのびます。



写真①





A1 区盛土部の川跡からは、縄文時代から鎌倉時代の遺物が数多く出土しています。とくに注目されるのは古代の瓦や土器で、遺跡の約 300m南西側に位置する奈良時代の寺院跡である石塚廃寺跡（県指定史跡）から流れてきたものと考えられます。



川の下層からは縄文時代晩期（約 3000 年前）の数多くの土器と共に石製の鍬が5点出土しました。



瓦の表面には、瓦を作る際に付いた格子や縄目の痕が見られます。色調も褐色や鼠色などバリエーションがあります。



P3 区で確認された溝は、天神野台地の裾部に掘削されたもので、水田等に伴う灌漑施設の可能性があります。



溝からは、古墳時代の煮炊き用の甕がわずかに見つかりました。近隣に集落があった可能性があります。